

長門市長 松林正俊

子ども議会



長門市子ども議会が1月12日、市内小学校の児童により市役所・市議会議事堂で開催されました。いつもと違う雰囲気になった議事堂では、7校の代表の各グループが、日頃自分たちが感じている身近な疑問や提言を率直に投げかけてくれました。慣れない環境での発言に戸惑いや緊張も感じられましたが、子どもたちは堂々と自分たちの主張をしてくれました。議事堂らしくそれぞれ党名やグループ名をつけ、地域や学校のなかで子どもたちの視線でとらえたことを提言してくれましたが、どれもこれ

も新鮮でさわやかなものでした。笑顔グループ（通小学校）は「大人も子どもも笑顔いっぱいである街を」、学校保存党（青海島小学校）は「自慢の校舎の保存を」、長門エンジヨイグループ（仙崎小学校）は「観光客が楽しめる長門に」、かりん党（深川小学校）は「活気がある若者が集まるまちに」、フラワーループ（大畑小学校）は「道ばたに花を植えよう」と、ふれあいグループ（向陽小学校）は「みんなで遊び、ふれあえる場所を」、クリーングリーン党（俵山小学校）は「ごみのないクリーンな長門に」と、それぞれこんな長門市になったらいいなという提案をしてくれました。中でも、「安心して暮らせる社会に」というタイトルで、車椅子を利

用する人たちの視線でみたエレベーターや駐車場についての中嶋詩織さんの提言は、福祉施策の推進を掲げる私にとって、障害をもつ人の身になって街をみることの大切さをあらためて示してくれました。子どもたちの素朴な疑問や意見は時として、おとな社会への痛烈な警告にもなります。この本質をとらえることを教える私たちが、実はそのことを忘れたり気づかずに行っているのです。ノーマライゼーション（障害をもつ人が差別なく暮らせる社会）のまちづくりは理念だけでは築けない、障害のある人となない人の心が一つになってはじめて成し得るものと、子ども議会は教えてくれました。



市内各地で恒例のどんと焼き

家庭から持ち寄られた正月の門松やしめ飾りを焼き、今年一年間の無病息災を祈る恒例のどんと焼きが、1月12日に大日比地区と俵山地区、15日には通地区で行われました。

やぐらの倒れた方角で今年一年間の豊漁、豊作を占う風習が百年以上も続く大日比地区では、習わしにより朝8時に年男が点火、竹やシダを使って作られた高さ約7mのやぐらは約10分ほどで倒れました。今年は海側

倒れたので豊漁が期待されることでした。



金子みすゞ生誕100年記念

NHKラジオの公開放送

1月17日からの3日間、ルネッサながとで金子みすゞの生誕一〇〇年を記念したNHKラジオの公開放送がありました。

17日は「ラジオ深夜便のつどい」の公開録音が行われ、佐治晴夫さんの講演には約650人が集まりました。18日の「土曜いきいき倶楽部」公開生放送では田布施町出身でタレントの松村邦洋さんがゲストとして登場し、ものまねを交えたトークに会場が盛り上がりました。また19日

には「歌の日曜散歩」の公開生放送がありました。

